

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
解表剤 扶正解表剤 6		
かげんいずいとう 加減葳蕤湯	滋陰清熱・発汗解表	玉竹9g・葱白6g・淡豆豉9g・薄荷5g・桔梗5g・白薇3g・炙甘草1.5g・大棗3g 水煎し分2で温服する。
重訂通俗傷寒論	<p><主治> 陰虚、風熱表証 頭痛、発熱、微悪風寒、無汗あるいは汗がでても多くはない、咳嗽、粘稠な痰、胸苦しい、咽の乾き、口渴、舌質が紅絳、脈が数などを呈す。</p> <p><病機> 陰虚の体質では内熱が生じるので、外邪を感受すると化熱し易くて風熱表証を呈する。 頭痛、発熱、軽度の悪風寒は風熱表証であり、胸苦しい、咳嗽、喀痰などは肺気の宣発が阻害されたことを示し、無汗、あるいは汗が出ても少ない。喀出しにくい粘稠痰、咽の乾燥、口渴は津液が不足していることを示す。舌が紅絳、脈が数は陰虚内熱をあらわす。</p> <p><方意> 陰虚の外感風熱であるから扶正祛邪する必要があり、汗源を補いつつ汗解する。表証があるときに早期から滋陰すると邪を留め、陰虚に対し発汗のみを行うと傷津する恐があるので、滋陰と発汗を同時に行い、滋陰清熱して解表を妨げず、発汗しても陰液を損傷しないようにする。 陰虚で汗が出ないか出ても少ないので、まず甘平柔潤の玉竹（葳蕤）で滋陰益液し、汗源を充足させて肺燥を潤す。葱豉湯（葱白・淡豆豉）と薄荷・桔梗は、風熱を疏散し宣肺、止咳、利咽する。苦鹹降泄の白薇は清熱涼血し陰虚内熱を除き、邪が心包に逆伝するのを予防する。甘潤の炙甘草・大棗は、滋液して玉竹（葳蕤）を助けると共に諸薬を調和する。</p> <p><参考> 本方（加減葳蕤湯）は陰虚の風熱表証、および冬季の風温病の初期で、咳嗽、咽の乾燥、痰が出にくいなどを呈するときに用いる。 本方（加減葳蕤湯）は葳蕤湯（千金要方）の加減方で、麻黄・独活・杏仁・川芎・青木香・石膏を除き、葱白・豆豉・薄荷・桔梗・大棗を加えて、本来の発表清裏、気血併重の重剤から、解肌清熱、養陰の軽剤に変えたものである。</p> <p>加減法 表証が強いときは、祛風解表の防風・葛根などを加える。 咳嗽、咽の乾燥、痰が粘稠で喀出できないときは、利咽化痰の牛蒡子・桔楼皮などを加える。 胸苦しく口渴がつよいときは、清熱生津の竹葉・天花粉などを加える。</p>	